

人材開発部門 活動記録

初期研修医合同セミナー

■「学ぶ側」から「教える側」へ指導者の役割を学ぶ

令和6年1月27日に熊本城ホールで、初期研修医のための合同セミナーが開かれ、済生会病院に勤務する1年目の研修医と研修責任者(指導医)合わせて274人が出席した。済生会学会・総会に合わせて開催しているもので、臨床研修の情報交換を行ない研修医同士の交流を深めている。

企画責任者で〈栃木〉宇都宮病院の泉学総合診療科主任診療科長(済生会医師臨床研修専門小委員会委員)が進行。本部・松原了理事の挨拶に続き、グループワークが行なわれた。

参加者は4月に2年目の研修医になりこれまでの“学ぶ側”から、1年目の研修医や済生会で臨床実習を受ける医学生を“教える側”になる。研修責任者がサポートする中、参加者は指導者としての役割を議論。自身のスマートフォンを用いて臨床研修に関するアンケートにも答えながら指導者としての役割を学んだ。

恒例のレジデント企画「当院の初期臨床研修」では、研修医が自院の研修の魅力をプレゼン。研修責任者の投票の結果、優勝－〈神奈川〉横浜市南部病院、準優勝－熊本病院、3位－〈富山〉高岡病院に賞状と記念品が贈られた。

(済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課)



医師臨床研修管理担当者研修会

■研修医の満足向上のために－Z世代研修医など近年の傾向もとらえる

令和6年1月27日に熊本城ホールで医師臨床研修管理担当者研修会が開かれ、指導医37人が参加した。

企画責任者である水戸済生会総合病院 千葉 義郎 臨床研修センター長(済生会医師臨床研修専門小委員会委員)、及び福井県済生会病院 金原 秀雄 内科部長が進行を担当した。

第1部は、株式会社メディカル・プリンシプル社 レジナビ営業グループ 山崎 香織様が、「医学生・初期研修医の最近の動向」と題し、近年のマッチング傾向、医学生・研修医が知りたい情報、Z世代の研修医の満足・特長等について講義した。

第2部は、テーマを「各医療機関における医師臨床研修の取り組みについて」とし、熊本病院 杉山真一 医師研修室長兼総合診療科副部長、中央病院 足立智英 臨床研修室室長、新潟病院 坪野俊広 副院長・教育研修センター長より、自院の取り組みについて、発表が行われた。

各講演・事例発表後は意見交換が行われ、研修医の確保等について理解を深めた。

(済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課)



済生会全国次世代指導者研修

■リーダーシップを学び情報を共有。4年ぶりの懇親会も

済生会全国次世代指導者研修が2月22～23日に本部で開かれ17病院から21人が参加した。本研修は先行き不透明な環境下に、組織の進む方向性を指し示すことができるリーダーの育成を目標としている。

松原了本部理事と全国済生会病院長会人材開発部会の塚田信廣部会長（東京・向島病院院長）が開会挨拶した。続いてGEヘルスケアのスタッフが講師を務め、人の性格や特性を4つのタイプに分類して適切なコミュニケーション方法を導き出す「DISC アセスメント」を活用したリーダーシップなどチームを導くために必要なスキル、知識等についてグループワークを中心に行なわれた。

2日目は済生会病院におけるリーダーシップの実践例として、「環境変化に対応し、組織改革を推進するリーダーシップ」をテーマに特別講演が行なわれた。講師は全国済生会病院長会の三角隆彦 会長（横浜市東部病院院長）と福井県済生会の登谷大修支部長が務めた。

1日目には懇親会が4年ぶりに実施され、参加者は情報交換を行ない済生会人として連携を深めた。

（事業基盤課・済生会総研）



臨床研修指導医のためのワークショップ

■指導医ワークショップに28人

第51回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが7月27～28日に大阪市のクロス・ウェーブ梅田で開かれ、21病院から28人が参加した。

〈大阪〉茨木病院・立田浩院長が主催責任者を務め、チーフタスクフォースの〈三重〉松阪総合病院・近藤昭信副院長ほか7人のタスクフォースが中心となり進行や受講者のサポートをした。事務局は済生会本部と今回担当の茨木病院、次回以降担当する静岡済生会総合病院と〈大阪〉泉尾病院が務めた。

研修ではeラーニングを用いた事前学習から始まり、当日は主に臨床研修プログラムの立案、目標設定、研修方法(方略)、評価など指導医に求められる知識と技術をグループワークで学んだ。受講者は「学んだことを実践で生かしたい」「積極的に研修医の教育、新入職員のストレスケアに関してもかかわっていききたい」と評価した。

同ワークショップは平成18年に第1回を開催。これまでの修了者は1460人に達した。

(事業基盤課)



医療技術者（PT・OT・ST）マネジメント研修会

■受講者「言動を振り返る機会になった」

医療技術者（PT・OT・ST）マネジメント研修会が令和6年10月17日、本部で開催され、49人が参加した。

本研修会は済生会人材育成計画書に基づき総研・事業基盤課の主催で開催。本会病院の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等セラピストで、リーダーもしくはマネージャーの任を担っている者・組織運営に必要なリーダーシップのスキルを身に付けたい者等が参加した。松原了理事が開会挨拶、済生会リハビリテーション研究会代表世話人・富本秀和 明和病院長が「医療技術者に期待すること・強いリハチームを創るには?」と題して講演。お互いをサポートし合う職場環境の重要性や、理念を永続的に実現するため経営基盤を強化する必要性を学んだ。

講師を務めた㈱エイトドア・下田静香氏は「リーダーの役割とチームワーク」「人のマネジメントとコミュニケーション」を解説。受講者はグループワークをしながら「リーダーが磨くべきスキル、果たすべき役割」「チームの特性と成長」「マネジメントにおけるポイント」等を学んだ。

受講者は「自分の日々の対応や言動を振り返り、どのように改善すべきか考える機会となった」「同じことで悩んでいる管理職セラピストと交流できてよかった」と話した。

（総研・事業基盤課）



薬剤部（科・局）長研修会

■薬剤師に病院経営への参画を期待

令和6年度薬剤部（科・局）長研修会が11月15日、ハイブリッド方式で行なわれた。済生会人材育成計画書に基づき済生会総研と事業基盤課が主催、病院の薬剤部（科・局）長等78人が参加した。

全国済生会病院長会・佐藤雅彦副会長（埼玉・川口総合病院長）は「薬剤部に期待すること」と題し、昨今の厳しい経営環境の中で「チーム医療の質の向上とともに病院経営への参画に期待したい」と薬剤部門の役割の重要性に言及した。

（株）エイトドア・下田静香氏は「管理職の役割と求められるスキル」をテーマに、「リーダーが磨くべきスキル」「リーダーシップとマネジメント」「成果と人材育成を目的とした目標管理・自己評価」等を解説した。

受講者は「役割と責任を経営的視点と実務的視点の両面から学ぶことができた」「リーダーシップについて分かりやすく学ぶことができた」と評価した。

（総研・事業基盤課）



臨床研修指導医のためのワークショップ（SWS）

■第 52 回 SWS 14 病院から 24 人が参加

第 52 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（SWS）が令和 6 年 11 月 30 日～12 月 1 日に千葉市・クロス・ウェーブ幕張で開かれ、14 病院から 24 人が参加した。

静岡済生会総合病院・岡本好史病院長が主催責任者を、同院・戸川証副院長兼臨床研修センター長がワークショップコーディネーターを務め、船越信介チーフタスクフォース（東京・中央病院・腫瘍内科担当部長）と船崎俊一氏（済生会総研担当顧問）など 6 人のタスクフォースが受講者をサポートした。事務局は第 52 回担当の静岡済生会総合病院と次回以降の担当である大阪・泉尾病院、京都済生会病院と済生会本部が務めた。

研修は e ラーニングによる事前学習から始まり、当日は主に臨床研修プログラムの立案、目標設定、研修方法（方略）、評価など指導医に求められる知識と技術をグループワークで学んだ。

受講者は「今すぐでもコーチングやフィードバックの手法を実践したい」「研修医の性格にあわせて、普段からコミュニケーションをとり、指導をしていきたい」と評価した。

SWS は平成 18 年に第 1 回を開催し、修了者は延べ 1484 人に達した。（事業基盤課）

